チャンドニガット 上水道施設改善計画

実施地域

ダッカ

1. プロジェクト要請の背景

バングラデシュ国民の大部分は、飲料や洗濯、水浴などの生活用水として、浅井戸、河川水、池の溜まり水などを利用しており、極めて不衛生な状況であった。このためバングラデシュにおける疾病の80%が水に起因し、特に乳幼児死亡率の約30%が水系性の下痢が原因とされている。

特に同国の首都ダッカにおいては、急激な人口増加に比べて水道水源開発が立ち遅れており、とりわけ人口の集中しているオールド・ダッカ地区では、既存井戸の取水過剰により地盤沈下の懸念も指摘されていた。

このような状況のもと、ダッカ市唯一の表流水の浄水場であるチャンドニガット浄水場の改修・拡張及び近代化を図り、ダッカ市の住民に安全な飲料水を供給することを目的として、本無償資金協力が要請された。

2. プロジェクトの概要

(1)協力期間

1993年度~1996年度

(2)援助形態

無償資金協力

(3)相手側実施機関

ダッカ市上下水道局(DWASA)

(4)協力の内容

1) 上位目標

ダッカ首都圏の住民の生活が改善される。

2) プロジェクト目標

ダッカ首都圏の住民に衛生的な上水を安定的に供 給する。



- 3) 成果
- a) チャンドニガット浄水場を改修する。
- b) 第1次配水管を敷設する。
- c) チャンドニガット浄水場の運営体制が整備される。
- 4) 投入

日本側

E / N限度供与額 合計 37.43 億円

バングラデシュ側

十地

施設運営・維持管理人員

ローカルコスト

3.調查団構成

JICA バングラデシュ事務所

(現地コンサルタント: Crown Agents に委託)

4.調査団派遣期間(調査実施時期)

1999年3月15日~1999年3月31日

5.評価結果

(1)効率性

浄水場の改修、配水管の敷設などの工事は計画どおり実施され、バングラデシュ側に引き渡された。

(2)目標達成度

上水施設は当初計画どおりバングラデシュ側に引き渡されたが、当初予測し得なかった取水口のあるブリガンガ川の近辺のスラム人口増加及び生活環境の悪化による水源の水質の急激な悪化により、悪臭のある着色した質の悪い水が配水されている。また、首都ダッカの人口集中、工業振興によって電力消費量(特に乾

期の暑い時期が急増し、停電が頻発したため、配水時間も短く不安定で、場所によっては断水することもある。

(3)効果

供給される水は衛生的には特に問題なく、住民は飲料用として利用している。

(4)計画の妥当性

ダッカでは水源の約95%が深井戸であり、過剰取水による地盤沈下が懸念されている。このため、表流水を利用した上水供給施設であるチャンドニガット浄水場の改修・拡張は高い妥当性を有している。

(5)自立発展性

給水事業は市民生活の基盤を支える事業であるため、浄水場の運営はバングラデシュ側によって今後も 継続されるはずである。ただし、質の高い衛生的な上 水を供給していくためには、DWASAの技術力向上が 不可欠である。

6.教訓・提言

(1)教訓

本プロジェクトでは、施設の改修は適切に実施されたが、生活環境の悪化と人口集中、工業振興による電力消費量(特に乾期の暑い時期)の急増による停電の頻発という当初予測し得なかった社会環境の変化によって、引き渡し後に施設が十分に機能していないという問題が発生した。計画段階で建設終了後の社会環境の変化まで視野に入れ、調査する必要がある。

(2)提言

上水を安定的に供給するために今後の対策を検討する必要がある。

7.フォローアップ状況

チャンドニガット浄水場の運営・維持管理能力向上 を目的として、1999年9月から6か月間、個別専門家 を派遣し、技術指導を行った。

停電の頻発の問題に対しては、DWASA側が自前予算で発電機を購入するなど、安定電力確保による同浄水場の良好運営及び良質の水供給に向けた改善努力を行っている。